

左房天井部に対するクライオバルーンアブレーション施行回数の予測に関する研究

1.研究の対象

当院で不整脈に対するカテーテルアブレーションを受けられた方

2.研究目的と方法

目的: 心房細動 (atrial fibrillation, AF) は、最も一般的な不整脈であり、心血管疾患による発症率の増加と密接に関連している。(1)心房細動の治療法には薬物療法とカテーテルアブレーションがあり、特に後者は再発を防止し、症状を軽減するための有力な選択肢とされています。(2)カテーテルアブレーションの治療方法としてクライオバルーンアブレーションは広く使用されており本邦のガイドラインでも推奨度がたかくなっている。

しかし、AF の再発リスクは肺静脈以外の心筋組織にも異常な電気活動が存在することに関連しており、特に心房上部 (天井部) における異常が再発を引き起こす可能性があります。このため、肺静脈隔離に加え、天井部焼灼を行うことによる治療効果の向上が期待されています。さらにクライオバルーンアブレーションを用いて天井部の焼灼を行うことで通常の高周波アブレーションよりも広く深い lesion 形成が期待できることが報告されている。(3)Kottkamp らの研究によると、天井部焼灼を追加することで、再発率が有意に低下することが報告されています。さらに、El-Chami ら (2020) のレビューでも、心房上部の焼灼が AF の管理において有益である可能性が期待されている。(4)しかし、天井部焼灼のためのクライオバルーンアブレーションの試行回数に関しての報告はまだない。本研究では、クライオバルーンアブレーションにおける天井部焼灼の試行回数を術前に実施した CT で予測可能かどうかを検討する。

方法: 本研究は京都田辺中央病院で 2024 年 2 月から 2025 年 3 月の 13 か月の間に初回心房細動アブレーション時にクライオバルーンアブレーションを用いて天井部焼灼を行った患者様を対象とし、術前造影 CT の両側肺静脈間の距離とクライオバルーンアブレーションの試行回数との関係を検討する。

3.研究に用いる試料・情報の種類

【治療時点での患者背景】

- ① 患者基本情報: 年齢、性別、患側 (左右)、身長、体重、歩行状況、症状 (Rutherford

分類)、背景疾患(高血圧、糖尿病、脂質異常症、維持透析、冠動脈疾患、脳血管疾患、慢性心不全、心房細動、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、喫煙歴、ABI 値

② 血液検査結果:血清クレアチニン、アルブミン、ヘモグロビン、血小板数、ヘモグロビン A1c、LDL コレステロール、HDL コレステロール、中性脂肪

③ 術前造影 CT 所見

④ アブレーション手技内容

4.お問い合わせ先

名前、住所等の個人を直接特定する情報については厳重に管理し、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人を特定できない形で行います。この文書は、研究期間中、京都田辺中央病院ホームページ上に掲載しています。将来、この研究の計画を変更する場合や、収集した情報を新たな研究に利用する場合は、倫理審査委員会の承認と、研究機関の長の許可を受けて実施します。その際も、個別にお知らせしない場合は、同ページに公開いたします。

【当院の問合せ窓口】 医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院

循環器内科 三木 知紀

TEL 0774-63-1111

-----以上